

ブナとイヌブナの種から大きな木になるまで

1. 種

ブナとイヌブナは、どちらもブナ科ブナ属の高木になる樹木です。

まず初めにブナとイヌブナの種を見てみましょう。

下の写真で左と右のどちらがブナの種ですか？

正解は、左側がブナの種で、右側は、イヌブナの種です。



また、次の写真は、まだ熟していないブナの種が2個入った小さな栗のイガのようなもので殻斗(かくと)と呼ばれています。虫に食べられたために成熟しないうちに枝から落下したものです。



2. 発根

シャーレに入れた湿ったろ紙の上に種をおいておくと、最初に種のとがったところから根がでできます。下の写真は、イヌブナの様子です。

ブナもイヌブナと同じように種のとがったところから根がでできます。



発根したイヌブナの種

3. 発芽

根がでたブナとイヌブナの種を、土を入れたポットの中に埋めると、下の写真のように小さな葉っぱ(子葉といいます)がでてきます。



左側:イヌブナの子葉

右側:ブナの子葉

左がイヌブナで、右がブナです。

ブナとイヌブナの子葉の大きさには特徴があって、なぜかイヌブナの子葉は、ブナの子葉に比べて非常に大きくできています。

ブナとイヌブナの子葉は、あまり観察するチャンスがありませんが、子葉の大きさを見ると、ブナとイヌブナの区別がはっきりとつきます。

次の写真のように子葉の先に本葉がでて、光合成を始めると子葉は、枯れ落ちてしまいます。子葉には、本葉がでるのを助ける役割があるといわれています。



本葉がでたイヌブナ(左側)とブナ(右側)

4. 幼木

本葉が育って2年たつと下の写真のような幼木になります。



ポットに植えた2年生のブナとイヌブナの幼木

5. 成木

ブナの幹は白っぽいのですが、イヌブナの幹は黒っぽくて色がちがいます。

また、イヌブナは根元から萌芽がでますが、ブナは萌芽がでません。

このように幹の色と根元からの萌芽のあるなしで、ブナとイヌブナの区別ができます。



根元からは萌芽しないブナ



根元から萌芽するイヌブナ